

喜多流 自主公演

平成二十七年九月

熊千岩
坂寿船
中村香川友枝
邦生靖嗣真也

平成27年 9月27日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階栈敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催 公益財団法人 十四世六平太記念財団 協力 喜多流職分会

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※平成27年度公演の前半5回分は発売中です。後半5回分は平成27年9月1日午前10:00より発売します。
- ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ・ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な優待券です。
- ・お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ・ご観能の際は別途チケットをご予約ください。追加料金はかかりません。ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。年間優待券のみでの観能はできません。ご入場の際は、年間優待券とチケットをご提示いただきます。
- ・ご利用は、平成27年度喜多流自主公演のみ有効です。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階栈敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

九月自主公演番組

岩船

後シテ・龍神
前シテ・童子

友枝真也

ワキ・勅使 大日方寛

ワキ連・從臣 御厨誠吾

ワキ連・從臣 野口能弘

アイ・住吉の浦人 山本凜太郎

大鼓 亀井洋佑
小鼓 幸 信吾

太鼓 林雄一郎
笛 杉信太郎

後見 塩津哲生
佐藤章雄

地謡

高林昌司 高林呻二
佐藤寛泰 狩野了一
塩津圭介 長島 茂
佐藤 陽 友枝雄人

狂言

栗焼

シテ・太郎冠者

山本則秀

アド・主

山本泰太郎

休憩(二十分)

能

千寿

シテ連・平重衡

内田成信

シテ・千寿 香川靖嗣

ワキ・狩野介宗茂 宝生 閑

大鼓 佃 良勝
小鼓 曾和正博

笛 松田弘之

後見 友枝昭世
金子匡一

地謡

谷 友矩 粟谷 充雄
佐々木多門 粟谷 明生
粟谷浩之 粟谷 能夫
佐藤 陽 金子敬一郎

休憩(十分)

仕舞

雨月

キリ

高林白牛口二

地謡

佐藤 陽 佐々木多門
高林呻二 高林輝久
大島輝久

能

熊坂

後シテ・熊坂の霊
前シテ・僧

中村邦生

ワキ・旅僧 殿田謙吉

アイ・赤坂の里人 山本則孝

大鼓 安福光雄
小鼓 田邊恭資

太鼓 大川典良
笛 内潟慶三

後見 粟谷 幸雄
内田 安信

地謡

高林昌司 谷 大作
佐藤寛泰 大村 定
塩津圭介 出雲 康雅
谷 友矩 大島輝久

岩船(いわふね)

摂津国住吉(今の大阪市住吉区)に新しく浜の市を立て、高麗や唐土の宝を買い取るようにという勅命が出た。命を受けて住吉に派遣された勅使は市の中で、唐人姿ながら大和ことばを話す童子と出会う。童子は治世を祝って来たと言いつつ、持っていた宝珠を捧げた。その上「天(あま)の岩船に積まれた切利天の喜見城の宝が浜に着き、その岩船の漕ぎ手・天の探女(さくめ)は自分のことだ」と云い再び宝物を満載した岩船が来ると予言して消え失せる。ハ中人V やがて八大竜王(後シテ)が海上に飛来し、金銀珠玉を山のように載せた宝の船を住吉の岸に漕ぎ寄せ、その宝物を悉く天皇に献上して、御代の繁栄を祝う。

栗焼(くりやき)

みごとな栗を四十個もらった主人が、大勢の客にふるまいたいので数に気を付けて焼き上げよと太郎冠者に命ずる。冠者は台所で栗を焼き上げ、熱いうちに皮をむき終えるも、良く見ているとあまりにうまそうなので一つ食べてしまう。その後もなにかと理屈をつけながら食べ続け、気が付くとみな食べてしまっていた。そこで主人への言い訳に、竈(かま)の神夫婦と三十四人の公達に一つずつ献上し、残り四個は灰紛れになったなどとこまかして、主人に叱られる。

千寿(せんじゆ)

一の谷の合戦で捕らえられた平重衡は、鎌倉に護送される。重衡に会った源頼朝は彼の毅然とした態度に心うたれ、狩野介宗茂の家に預け手厚くもてなす。残り少ない命の重衡を慰めるようにと、自分の侍女であった手越の長者の娘、千寿を遣わした。雨の夜、頼朝に命ぜられて千寿は琴と琵琶を持って訪れる。重衡は、自分は朝敵であるので出家の望みも叶わない上、南都焼討の報いでこのように恥を晒させられているのだと沈みがちになっていた。宗茂は重衡の心中を察し、慰めるため酒を勧める。千寿も酌をして、詩の朗詠や舞を舞って、重衡の心を和ませる。だんだんと二人は心を通い合わせていたが、夜が明け、勅命により重衡は都へ行くことになり、二人は泣く泣く別れを惜しんだのであった。

熊坂(くまさか)

旅の僧が美濃の赤坂にさしかかったとき、一人の僧に呼び止められ、今日はある者の命だから甲いを頼むと言われ、その僧の庵室に導かれる。持仏堂に案内されるが、仏像はなく薙刀や鉄の棒が置いてあるので驚き尋ねると、この辺は山賊夜盗が多いので用心に備えてあるのだという。夜更けて寝室に入ると見えていつしかその姿も庵室も消え、気がつくとも旅僧は野原にいる。ハ中人V 丁度通り合わせた赤坂の里人からこの地で果てた盗賊の話聞き、庵主の僧は熊坂長範の霊の仮の姿だったと気付く。旅僧が甲いをする、長範の霊が昔の姿で薙刀を手にして現れる。霊は生前に金商人吉次の一行の泊まる旅館を大勢で攻め入ったが、その中にいた牛若に逆に斬り散らされ、自分も命を落とした仕方話で物語り、松が根の露霜とともに消えてゆく。

平成二十七年 十月 自主公演番組予告

平成二十七年 十月二十五日(日) 正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂

清 経 佐藤 章雄
籠 太鼓 金子敬一郎
融 松井 彬